

あさひ燦々



理念 地域の人々と勤労者の方々に信頼される医療を提供します

○基本方針 ① 患者さんの権利を尊重して、患者さん中心の医療を実践します。 ② 多職種と幅広く連携し、地域医療の充実に努めます。 ③ 地域の中核病院として急性期医療・救急医療の充実に努めます。 ④ 慈愛の心に満ちた医療人を育成します。 ⑤ 一般医療を基盤とした勤労者医療を積極的に実践します。 ⑥ 働き甲斐のある職場づくりをし、健全な病院運営を行います。

特集

看護部長就任のご挨拶



看護部長 中津川 美佐

今年度より看護部長に就任しました。名古屋市にある中部労災病院で3年間看護副部長を経験させていただき、旭ろうさい病院にまいりました。当院が皆さまのお役にたてる病院としてより発展できるよう、努力を重ねていく所存です。

就任後春から夏にかけては看護師募集の時期でした。今年度も新型コロナウイルスの感染拡大で、看護専門学校や大学に伺うことがままならない場合もありましたが、優しく、たくましく、やる気に満ちた将来の仲間に来てもらえるよう、当院をアピールしてまいりました。以下、近頃の看護師事情につきまして、二三お伝えします。

小学生や中学生の“なりたい仕事ランキング”では、いつも女子の上位に

ランクインしている看護師ですが、現在では男性も増え、当院でも多くの男性看護師が活躍しています。性別を意識することなくチームとして一人一人のいいところを活かしながら働く職場ですので、看護師を選択する男性がもっともっと増えればと思います。

今後も少子高齢化により社会全体の働く人口が減っていき、看護師確保も今以上に難しくなっていくと思います。幸い看護師は定年を過ぎても働くことができます。経験が長く、酸いも甘いも噛み分けた定年前後の看護師は“プラチナナース”と呼ばれ、今後さらに貴重な人材となります。患者さんが当院に受診・入院された際に、顔馴染みの看護師がいることで安心し、アットホームな気持ちになって頂けるよう、

看護師が働き続けられる職場を作っていきたいと思います。

また、看護の分野での専門化も進んでいます。医師の代わりに特定の医療行為ができる“特定看護師”の養成です。患者さんがスムーズに診療を受けられ、医師の働き方改革にも貢献できるということで、当院でも今年度よりコースを開講し、育成しています。

今後の新型コロナウイルスの動向は予測できませんが、どのような状況でも患者さんの一番近くにいる看護師が優しくいきいきと働いていることが、患者さんに選んでいただける病院の第一歩と考えます。看護部皆で努力してまいりますので、どうぞよろしく願います。



特 集



腹腔鏡手術とは？

外科部長 松村 卓樹

腹腔鏡手術とは、小さな切開創を数カ所作成し、体腔内にカメラを挿入し、モニターに映し出された術野を見ながら、操作鉗子を用いて手術を行うものです。日本では1990年代に初めて腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行され、その後の30年で瞬く間に普及し、現在消化器外科領域においては胃、大腸を筆頭に最近では食道や肝臓・脾臓・膵臓にもその適応が広がりつつあります。そこまで急速に発展

した理由としては、腹腔鏡手術の最大の特徴である「低侵襲性」が時代のニーズに合ったからと考えられています。

具体的に腹腔鏡手術のメリットとしては、傷が小さく創部痛が軽度、整容性に優れている、術後の回復が早い、入院期間が短い、創感染が少ない、術後腸閉塞が少ない、などが示されています。さらに、腹腔鏡による近接・拡大視効果で奥深い空間も精緻

な観察ができるため、出血が極めて少なく、自律神経温存などに寄与することも大きな特徴です。

当院においても、年々腹腔鏡手術の割合が増加しています。実際には患者さんの病気の進行具合や基礎疾患などを考慮し、開腹手術で行うか腹腔鏡手術で行うかを判断しておりますが、現在当院での対象疾患として胃癌、大腸癌、逆流性食道炎、胆石症、鼠径ヘルニア、虫垂炎などを中心として行っています。少しでもみなさまの早期社会復帰にお役に立て

ばと考えております。

近年では3Dカメラや、4K、8Kカメラといった高画質カメラの普及、画像ナビゲーションシステムの臨床応用や手術支援ロボット（da Vinci）の適応拡大など、腹腔鏡手術をより安全に確実に行う様々なデバイスが日々進化を遂げています。今後もさらなる腹腔鏡手術の発展が予測され、技術革新とともに手術の進歩があるといっても過言ではない？かもしれません。



診療トピックス



総合内科について

総合内科部長 小栗 太一

皆さんは総合内科という科をご存じでしょうか。聞いたことがある方もいれば、あまりよく知らないという方もいらっしゃるのではないかと思います。

これまでは細分化された専門科が重要視され、各分野のスペシャリストが各々自分の得意とする分野を診療するというスタイルが医療の主流でした。



教えてドクターQ&A

【質問】

気になる肌のシミについて質問です。私は仕事もプライベートでも屋外で過ごすことは少ないので、紫外線対策は夏だけしかしていませんでした。

先日家族から頬にシミが目立ってきたと言われました。それ以来、鏡で自分の顔を見るたびに気になって仕方がありません。いったん出来たシミはどうしたら目立たなくなるのでしょうか？どうか先生教えてください。

(40歳代 女性)



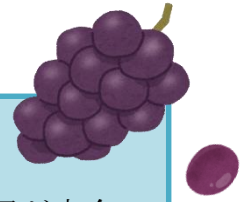
【回答】

顔のシミは、老人性色素斑、脂漏性角化症、肝斑、後天性両側性太田母斑様色素斑、炎症後色素沈着などの疾患の可能性があります。疾患によって治療法や予防法が異なることがあります。

30-40歳代から目立ってくるシミの多くは、老人性色素斑や脂漏性角化症の可能性があります。日常生活での紫外線対策はシミの予防に役立ちます。夏の晴れた日中は紫外線が強いですが、それ以外の季節や天気でも紫外線はそれなりに含まれています。季節や天気にあわせて紫外線を避けることは有用です。治療としては、外用薬、内服薬、レーザー治療、ケミカルピーリングなどがあります。外用薬としてはハイドロキノン含有剤の外用薬などがあります。ハイドロキノン含有外用薬は、扱っている医療機関が限られてくるため、おもに自費治療を行っている美容皮膚科での処方になります。

内服薬としては炎症後色素沈着にはビタミンCの内服が一般的です。ビタミンC以外の内服薬としてトラネキサム酸やL-システインがありますが保険医療ではシミへの適応はなく、自費治療を行っている医療機関などでの投薬・購入になります。効果は個人差が大きいことと効果が出るまでに時間がかかることが難点ですが試してみる価値はあると思います。

皮膚科部長 榊原 代幸



～病院機能評価認定を更新しました～

病院機能評価とは、日本医療機能評価機構が実施する審査で、国民が安全で安心な医療が受けられるよう病院組織全体の運営管理及び提供される医療について4つの評価領域から構成される評価項目を用いて評価するものです。

当院は今年が5年に一度の更新年であったため、6月9日に病院機能評価の訪問審査を受審し認定を更新することができました。

今後とも皆様に安全で安心な医療を提供できるよう日々努力して参ります。

当院は臨床研修病院です

当院は厚生労働省から指定された臨床研修病院です。
指導医を中心とした適切な指導の下、初期臨床研修医が診療に従事しております。
みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。



【編集後記】

菅政権が退陣しましたが、その成果として、デジタル庁を創設しデジタル改革を推進したことは高く評価されているようです。

「デジタル後進国」と言われたこの国で、行政の「縦割り打破」を目指し、各省庁ごとにバラバラだったシステムや書式を一元化し、行政手続きでの押印が原則廃止（いわゆる「脱ハンコ」）されました。ただし、婚姻届や離婚届は「人生の節目」として押印を望む意見が数多く寄せられて、希望者には引き続き押印を認めているそうです。

私個人も、若かりし頃はデジタル分野に（当時のレベルでは）明るい方で、2000～2010年頃まではガラケーに自分で入力して作成した着メロを使用し、画像や操作音を自作するなどして楽しんでいました。

しかし、そういうことへの興味は年々人並み以上に薄れてしまい、スマホに乗り換えたのも周りの人より後からで、SNS（ソーシャルネットワークサービス）にも手を出せず、今年に入ってやっと、家族に招待されてLINE（ライン）を始めたところです。

ずっとデジタルに及び腰だった我が国が改革できたのなら、私も負けてられないなと、もう少し50の手習いをやってみようと思います。

事務局長 近藤 誠介

